

# 三次地区医療センター健康いきいき(くうでるうごく)事業への取り組み-作業療法士としての関わり-

Key word: 連携 連動 地域包括ケア  
河原田竜生, 下山恭史, 重岡宏美, 安信祐治  
三次地区医療センター

はじめに

今回は高齢化が進む三次市において、フレイル・認知症・心不全対策の「連携・連動」を目指した当院の新しい取り組み、三次地区医療センター健康いきいき事業について、作業療法士(以下 OT)としての関わりを加えて報告する。

当院は、県北唯一の回復期リハビリテーション病棟を有する病院として地域リハビリテーション広域支援センターを拝命し、元気サロン(通いの場)の立ち上げに協力してきた。また、三次市では認知症の予防と早期発見・早期対応の取り組みとして、認知症初期集中支援チームを三次地区医師会に委託している。医師会事業所として「認知症初期集中支援事業」に当院も参加し、OT も認知症対策に関わってきた。これらの取り組みは高齢者プランに掲げられた事業であり、医療機関として積極的に関わりにくい分野であった。しかしながら、当院は地域心臓いきいきセンターを拝命し、OT も「心臓いきいき推進事業」に取り組んできた経緯があり、高齢心不全患者に合併する認知症、身体的フレイルが、心臓リハビリテーションの阻害要因になることを感じていた。その中で、フレイル・認知症・心不全が疑われる高齢者に対応できる連携体制づくりとして、従来の循環器外来の窓口を広げた新たなアプローチを展開していくこととなった。

事業の概要

1. 対象: フレイル, 認知症, 心不全が疑われる高齢者や元気のない高齢者。

2. 窓口: 以下の3つの窓口にて包括的な受け入れ体制とする。(1) 上記対象者をかかりつけ医より循環器外来に紹介。(2) 認知症が疑われる方を当院に設置する「認知症初期集中支援事業窓口」に連絡。(3) フレイルが疑われる方を当院に設置している「地域リハビリテーション広域支援センター窓口」へ連絡。

3. 事業戦略として

(1) 3つの窓口のそれぞれの取り組みを共有し、事業の包括的な取り組みを推進するキャッチフレーズ「くうでるうごく」を作成・活用した。

くう(食う), でる(出る), うごく(動く)とは、フレイル・認知症・心不全対策に共通する「栄養・口腔」「社会参加」「身体活動」を表す言葉である。(2) フレイル, 認知症, 心不全を合併している個別支援に対し、3つの窓口が連携し院内の包括的な医療の提供と社会的支援を統合的に調整する。(3) 個別支援の経験・実績を通じて関連機関間や専門職間のネットワークを地域社会に構築していく。

OT としての関わり

筆者は OT の立場から認知症初期集中支援チーム員であり、元気サロンの支援にも参画している。その中で、関連機関や専門機関と協働し、ネットワークを広げながらそれぞれの個別支援も展開している。その経験をもとに OT として、三次地区医療センター健康いきいき事業に関わる人と人との新しい関係性をつくり、それが事業に発展するよう関りを持った。このようにフレイル・認知症・心不全, 医療・介護・地域と幅広くつながりを持つことも OT の特徴だと考える。

おわりに

今後、医療センター健康いきいき事業での一つ一つの支援の積み重ねとそのための連携体制づくりが、地域社会全体の改善に繋がることを意識しながら、縦割りを越えた多様で重層的な連携が進むことを期待する。